

第4回浦安市緑の基本計画改定検討委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和4年2月21日(月) 午前10時00分～午前12時00分

2. 開催場所 オンライン会議

3. 出席者

(委員)

横田委員長、竹内副委員長、川口委員、松岡委員、秋元委員、有田委員、男全委員、河田委員

(事務局)

知久都市整備部長、大木都市整備部次長、柿島みどり公園課長、本村みどり公園課主事

(傍聴人)

オンライン開催のため傍聴人の受付なし

4. 内容

(1) 開会

(2) 議事

- ・議題1 前回委員会の意見対応について
- ・議題2 計画の推進体制について

(3) 閉会

5. 配布資料

- ・議事次第
- ・委員名簿
- ・資料1 第3回委員会意見対応表
- ・参考資料1 施策体系および各施策の内容(最終案)
- ・参考資料2 地域別方針及び緑化重点地区の設定(最終案)
- ・参考資料3 スライド資料

6. 会議経過

はじめに事務局から開会挨拶、会議資料の確認を行い、続いて「議題1 前回委員会の意見対応」、「議題2 これまでの議論と対応」について「参考資料3 スライド資料」を画面共有し説明した。

議事ごとに委員による質疑を行った。主な質疑内容は次のとおり。

○事務局より、会議資料について確認を行う。

(委員長)

本日はオンライン開催につき、傍聴人の受け付けを行わないため、議題に入る。

○事務局より「議題1 前回委員会の意見対応」、「議題2 これまでの議論と対応」について説明を行う。

(委員長)

「議題1 前回委員会の意見対応」について質問、意見はあるか。

(委員)

「施策15 市民による緑地維持管理活動に対する支援の充実」に関して、「浦安市民の高いポテンシャルを活かすためには、それぞれの団体を繋ぐ仕組みや仕掛けが必要ではないか。」という委員意見に対する市の見解として「それぞれの団体を繋ぐ仕組みとして、みどりに関する情報収集や情報提供、相談ができるような指定管理団体などの中核機能の創出を図ります。」とあるが、浦安市では各自治会同士が連携する機会が現状少ないと感じるが、今後連携を強化していくような方向性についてどのように考えているのか。

(事務局)

自治体の連携については議題2における「主体ごとの役割および、追加する役割案」の中で追記した中間支援組織を設置することで、支援の窓口や緑化活動団体同士の連携の強化を図りたいと考えている。

(委員)

意見対応について、市の見解として「検討を進めていきたい」とする返答が多いが、具体的な内容については次回以降の委員会で検討するのか。今後の進め方にもよると思うが具体的な取り組みに関する内容が出てくることを期待している。

(副委員長)

本日の委員会は「参考資料1_施策体系」、「参考資料2_地域別方針及び緑化重点地区の設定」が配布されており、その内容を固めていきたい事務局の意向もあると思うので、まずは参考資料1、参考資料2の修正点について議論を進めてはどうか。

(委員長)

是非そのように進めていきたい。参考資料中に赤字で記載されている部分を中心にご確認いただきたい。特に参考資料1の基本方針3、4は加筆が多いため、委員のご意見を伺いたい。

(副委員長)

雨水管理計画との連携について、「施策6 公園等の防災機能充実」の本文中に記載いただいているが、防災機能に関しては一括りになっているため、公園機能の充実以外に、雨水管理計画との連携について施策9に準じた書き方で追加いただきたい。地域別の重点地区の当該箇所についても、公園の整備だけでなく、雨水管理についても住民の方々に協力していただくことも将来的に可能かもしれないので、是非施策体系にその旨を打ち出していただきたい。

(事務局)

雨水管理計画との連携については「施策の方向2-1 防災・減災の推進」の中に追加することを検討する。

(委員長)

防災機能には、避難に関するソフト面が重要である一方、減災に関するハード面で実現していける部分も多い。引き続き検討いただきたい。

(委員長)

「議題2 これまでの議論と対応」について質問、意見はあるか。

(委員長)

現行計画における主体ごとの役割および、追加する役割案について、どの程度委員意見を盛り込めるのか、具体像が掴めない部分もあるかと思う。役割イメージが記載されているが、実際にどのような取組みを検討されているか事務局より補足いただくことは可能か。

(委員)

市民に期待される役割として、「身近な公園緑地等のみどりに関心を持ち、緑化活動に参加する。」と記載されているが、近隣住民は公園ボランティア団体がどのような活動をしているのか、ほとんど関心を持っていないのが実情である。自治体と公園ボランティアとの連携を強化する計画を立てて頂けたら良い。例えば、公園の清掃や植栽管理など小さな活動からはじめることで、皆さんも関心を持っていただけるのではないか。いつもきれいにしてくれてありがとうと感謝してくれる人が多い一方で、特異な目で見られることもある。近隣の方と身近に活動が出来たら、より楽しく人も増えていくと思う。

(事務局)

委員から頂いたご意見や、市民の要望を集約し、発信し、共有する役割を担う中間支援組織の設置の検討を今まさに進めている。中間支援組織を設置することで、公園ボランティア活動に関する発信も強化していく予定である。

(委員長)

中間支援組織の設置と、緑化活動支援制度との関係をどのようにお考えか今の段階で方針などがあれば伺いたい。現在活動している緑化活動団体に対して中間支援が入ると

変化があると思うが、どのような方針を想定しているのか。

(事務局)

浦安市では約40団体の緑化活動団体が活動している。現状だと各団体1つ1つについて、市の職員が対応している状況であるが、中間支援組織を設置することにより、各団体の活動目的に応じた適切な指導や物資の支援等を行えるようになると考えている。

(委員)

住宅団地の住宅管理組合には園芸緑化委員があり、団地内の植栽管理等を行っている。また、それとは別に1～2か月に1回、グリーンディといった、皆で草むしり等をする活動もある。これらは団地内の敷地に限った活動であり、敷地外の公共緑地について手を出すことについては制約されている。市で検討している中間支援組織と園芸緑化委員は多少活動内容が重なる部分もあるように思う。園芸緑化委員が団地全体の緑化組合として、自分たちの団地だけでなく、もう少し外の道路まで手を延ばして活動が可能になる等の働きかけができると活動が広がるのではないかと。

(委員)

中間支援組織は、浦安市の緑に関する実態について詳しく知っている方でなければ務まらないのではないかと。どのように人員を集めるかも課題である。

(委員)

八千代市の事例で作業頻度が清掃を週に1回以上、草刈を年に4回以上とあるがその委託料は自治会が管理しているのか。

(事務局)

八千代市の事例を紹介させていただいたが、浦安市でこの制度を導入するならば、公園の植栽管理の全てを自治会にお任せするのではなく、市が植栽の維持管理をしていく中で、その一部を地域の市民に少しでも担っていただくような制度を検討している。導入することで地域の方が公園を守っていき、大切にしていこうという意識をもっていただければ良いと思っている。

(委員)

中間支援組織と緑化活動団体の連携が必要になってくる中で、緑化サポートセンターや花苗を供給するような生産拠点が必要ではないかと。大きな施設を作ることは難しいと思うが、花の種類や植え方に関する講習会、市民が困ったときに頼れるサポートセンターのような施設があると良い。植物について学びたい人も多いのではないかと。

(委員)

市の緑に対するコンセプト・目的・目標を明確にするべきではないかと。管理組合は自分の土地の中だけの財産管理をされており、自治体は地域の管理をされていると理解しているが、その地域のコンセプト、引いては市全体のコンセプトを定めることが重要ではないかと。個々の組織はしっかり活動されているように思うが、全体としてのコンセプトが必要ではないかと。各地域がばらばらに取組んでも統一性が欠けてしまうため、各地域の特色

を活かした緑化を市で統一し、コンセプトとしてまとめて欲しい。

(委員)

中間支援者の役割をもう少し明確にすべきではないか。特に各団体の活動の横の連携をうまく調整いただけると良い。

(事務局)

横の連携として、みどりのネットワークという市民と行政の協働事業があり、各緑化活動団体を繋ぐ活動をしていただいている。併せて中間支援組織を設置することで横の連携をさらに充実させていこうと考えている。

(副委員長)

公共施設の管理の中間支援組織の役割と民間の緑化の中間支援組織の役割はイメージが異なるため、分けて考えたほうが良いと思う。

公共施設の管理は行政に責任があるので、どこまで行政が責任を持ち、どこまで市民にご協力いただくのかは事務局で検討いただき、その上で中間支援組織にどこまで担ってもらうのか考える必要がある。

一方で私有地を市民で協力して管理する活動は、相談窓口のようなものを行政で設置するのか、市民の中で知識や経験が豊かな方に有償支援を募る等、どのように市民の方々にサポートいただくのか検討する必要がある。

公園管理については、Park-PFI や指定管理者制度を検討されているので、どの公園をどのくらいの規模でどのようにしていくのか等、整理した方が良いと思う。急に全ての計画について進めることは難しい。素晴らしい活動をされている弁天ふれあいの森公園をモデルとして、体制を新しく考えていくことも良いのではないかな。

(委員長)

中間支援組織の設置に関するスケジューリングはどのように考えているのか。施策の中では長期というイメージで書かれているが、推進体制を考えるのであればある程度の具体的なステップを検討する必要があるのではないかな。

(事務局)

現行計画の中でも、中間支援という言葉ではないが、拠点施設等を設置する目標を掲げさせていただいている。しかし、用地や人員の問題があり具体化していない現状である。そこで緑の基本計画改定にあたり、もう一度中間支援という形で具体的に取組んでいこうと考えている。来年度、再来年度になるかは未定であるが、他自治体の状況も参考にしながら、なるべく早く実現できるように取組んでいきたい。

(委員長)

「施策18 広報・普及啓発の強化」について、中間支援組織の設置によって、情報の発信源ができたときに、どういった方法で市民に関わっていただく手段をメニューとして増やしていくのか、現状で想定している方針等があれば教えていただきたい。

(事務局)

広報・普及については、特に若い世代への周知を強化したいと考えている。「浦安新聞に掲載することで多くの方に目に留まるのではないか」という前回委員会でのご意見を受け、掲載に向けた検討を進めている。また、浦安市 HP や公式 SNS、駅前のデジタルサイネージは若い世代の方が目にする機会が多いと考えており、こちらも活用していくことを考えている。広報うらやすについては、新聞を購読していなくても申請いただければお届けするサービスがあるので、こちらとも連携する。今後できるだけ多くの市民に情報が行き届くような施策を進める予定である。

(委員長)

総合目標に市民満足度を設定しているのので、一般市民の参加の裾野を広げることを狙いとした広報・普及手段を拡充していただきたい。裾野の広い活動のあり方も併せて検討いただければ良いと思う。防災との関連性もあるため、先ほど雨水管理計画との連携の話もあったが、防災をきっかけとした緑との関り等、シナジーを考慮することも重要である。

(委員)

浦安公園をはじめ、樹木が若く、緑陰が少ない。例えば、パーゴラのようなものを設置し、ツタを這わせる等、新たに樹を植えなくても木陰を増やす工夫ができるのではないかと。

また、ベンチや椅子も少ないように思う。地球温暖化の影響か、夏は特に日射病等、体調を崩される方も多いため設置を検討していただきたい。

(事務局)

浦安公園に限って言えば、「日陰となる広場」をゾーニングしている。ただし、まだ樹木が若く生長にも時間がかかるため、日陰が出来ていないのが現状であり、各所にパーゴラ等を設置し、工夫しているところである。他の公園でも日陰がない等、ご指摘を受けることがあるが、構造物としての日陰よりも木々の緑陰の方が気持ちよく休めるという声もあり、土地柄海沿いは中々樹木が育たなく悩みどころである。今後の整備を検討していく。

(委員)

新計画の運用に関して、中間見直しと目標年次の設定の理由を伺いたい。令和 21 年というと大分先の話のように感じる。委員からも温暖化の話も出ていたが、もう少し前倒しが必要ではないか。

(事務局)

目標年次である令和 21 年はかなり先であるが、現行計画と同様に都市計画マスタープランの目標年次に合わせて設定している。中間見直し時期が令和 12 年になっており、こちらも前倒しすべきではないかという声もいただいている。中間見直しの年次を変更することは難しいが、例えば、中間報告といった方法で目標に対する進捗を確認できるような方法を検討する。

(委員長)

新計画の運用に関して、PDCA サイクルが記載されているが、特に CHECK がここでは重

要になってくると思う。目標の達成状況に関する情報収集や評価、共有の方法として緑の基本計画の中で決められていること、または想定していることがあれば伺いたい。

(事務局)

定期的な進捗報告を行う時期については決まっていない。緑視率、緑被率の測定の継続、Uモニ等の市民アンケートを定期的実施していきたいと考えている。

(委員)

緑の生育状況やトレンド等、時代にリンクした施策を行い、検証や改定しながら進める必要があると思う。

(委員長)

改定計画における推進体制の具体的な記載内容について、委員メンバーが確認できるのはいつ頃か。

(事務局)

次回の委員会でパブリックコメント案を委員にご確認いただく予定である。こちらのパブリックコメント案は実際に発行される改定計画に近い原稿となる。

(委員)

広報・普及に関連して、弁天ふれあいの森公園では月ごとにイベントを行っており、公園の前を通ると掲示板にそのイベントの張り紙が掲示されているが、ホームページ等はない。以前、緑に関するイベントの参加をインターネットで予約できればと思ったが、どのサイトを見たら良いのか分からないことがあった。例えば、浦安市ホームページの弁天ふれあいの森公園の紹介ページからアクセスできたり、中間支援組織が独自のホームページの制作に協力したり等、大きな公園であれば、そういったものがあると良いのではないか。

(事務局)

市民と行政の協働で運営している「みどりのネットワーク」にはホームページがあり、イベントの開催について告知させていただいている。市のホームページからアクセスでき、イベントなどの開催内容や日程等について把握することができる。一方で、どこにあるか見つけるのが難しいという意見もあるので、より分かりやすく誘導できる仕組みを検討する必要があると考えている。

(委員)

「施策6 公園等の防災機能充実」について、防災機能を有する公園が少ないように思う。海楽公園の場合は、防災倉庫があり、弁天ふれあいの森公園では、簡易トイレ周辺が整備されているが、もう少し、どこに何があるか分かるようになったら近隣住民も安心できるのではないか。

(事務局)

防災施設については、1次避難場所となる近隣公園以上の公園には防災機能をもたせたトイレや、かまどベンチ等を設置している公園は多い。しかし市民に知られていない部

分もあるため、周知について考える必要があると認識している。

(委員)

梅や銀杏、スモモを収穫して食べる等、緑からの恩恵として、果実等の実を収穫する楽しみもある。改定計画にはこのような視点を盛り込むことはできないか。

(委員長)

「施策13 景観を楽しめる緑化の推進」、「施策5 民有地の緑化」等に関連して、緑の恵みに関する話を盛り込んでみたらいかがか。手段の話が多い中、緑の恵みのあり方は、市民満足度にもつながる重要な視点だと思う。

(事務局)

花の美しさや癒しを与える役割といった緑からの恵みは施策の中に表現しきれていない。現行計画においては章と章の間にコラムを付けさせていただいている。そういった方法で盛り込めないか検討させていただく。

(委員)

銀杏の話が出たが、街路樹のヤマモモの実が落ちて道路を汚している問題がある一方で、ヤマモモをジャムに活用したい人もいる。そうしたネガティブ要素とポジティブ要素をつなぐような仕組みを中間支援者に担ってもらっても良いのではないか。

(事務局)

行政側としては弱い方の立場を優先し、ネガティブ要素を取り除くような方向に進んでしまうが、ポジティブ要素についても両者の理解を得つつ取り入れる必要があると思う。そういった意味では中間支援者に担ってもらうことが必要になるかもしれない。

(委員)

公園の活用方法や、緑の楽しみ方については、できれば中間支援組織の中で、例えば浦安市の緑のコンシェルジュのようなものを設置し、みどりのネットワークの活動から果実の食べごろの時期まで、浦安市の魅力を幅広く伝える活動をしていただけたら良い。また、みどりの楽しみ方そのものを知らない人も多いのではないか。浦安市の広報の中でこれからの花の見どころの場所や注目ポイント等、体感的なものを紹介し楽しめる人を増やしてみてもどうか。

改定計画の中でも、中間目標など、緑被率、緑視率など定量的なものを指標としているが、数値のみではなく、みどりの質の問題にも注目して頂けたら良いと思う。

(副委員長)

皆様のご意見を伺っている中で、「施策の方向4-1 みどりと触れ合える機会の提供」が特に重要だと感じた。みどりの目標4に「市民が緑と触れ合う機会を増やす」と書かれているが、参考資料1には、「市民が主体的にみどりづくりや維持管理に関わり、楽しみながらみどりを体験できる機会」とある。触れ合う機会というよりは、もっと主体的に市民がやりたいことができるような表現を入れていただくと良い。本委員会でも、市の中で専門家として積極的に活動されている方もいらっしゃるの、先ほどのコンシェル

ジェのような、市の中で知識や経験が豊かな方に登録いただき、有償ボランティアや講習会を開くなど、中間支援組織に頼り過ぎないように、つないでもらいながらも市民の力を活かして主体的に活動していく方が、市民満足度は高まるのではないかと。

「施策の方向4-1 みどりと触れ合える機会の提供」の表現を公園の再整備を進める際も、市民がある程度責任を持ちながら活動できるような体制を作るなど、もう少し市民が運営側になるくらい積極的に関わっていく表現が加えられると良い。

また、様々な取組みや活動を同時に進めることは難しく、それをマネジメントする可能な中間支援者もいないと思うので、まずは場所を限定して市民の能力のある方が活動できるようになる、参加しやすい場を形成する仕組みができると良いと思う。

(委員長)

弁天ふれあいの森公園はモデルとなる事例だと思う。また、自主管理公園制度というものもある。自主管理できる公園を作っていくようなことも盛り込めるようであれば検討いただきたい。

(委員)

「施策19 市民参加による環境モニタリング」、「施策20 環境教育の推進」に関連して、緑のコンシェルジェを通じて、参加を待つのではなく、出向いて出張することも良いのではないかと。

また、浦安市の緑の魅力として四季を感じる緑を増やしていければ良いと思う。

(委員)

東日本大震災後、日の出海岸近傍にタブノキを植えるにあたり、子供たちにタブノキの実を拾っていただき、それを蒔いて芽が出て育ったら植え替えて、防潮堤を作った場所に植えてということをして3～4年取組んできた。本来であれば去年で終わりだったが、延期になり、2月末に最後の植え込みをすることになっている。子供達はとても楽しみにしていたので、育てる楽しみを体験し学んでいただくことはとても良いことだと思う。市でも、そのような機会を作っていたら、環境教育の一環となるのではないかと。

(委員長)

環境教育や体験について計画に盛り込めると良い。生きものに関しても単に生きものがあるという情報だけでなく、生き物と人の触れ合いについて、教育や体験の観点からの関わりがみえるような書きぶりができるとう良い。

(委員)

先ほど、緑の質の問題についての話題が出たが、公共施設と民有地(団地)について、浦安市の場合、中町、新町についてはほとんどオープンに近い。同じ目線で考えてみたらどうか。

最近樹木の虫害に関する問い合わせが多いが、ホシベニカミキリの影響でタブノキが痛んでいる。また、チャドクガの被害が大きい場所も見受けられる。緑のコンシェルジェのような方が発見し、市と連携して対処するなど、安全性を第一に考え、次に安心に出来

るまちづくりとして景観について考えるなど、段階的に考えていく必要があると思う。

また、堤防の桜も20年でもものすごく立派になった。樹木に対する生長率も含めて検討してみてもどうか。

(委員長)

植栽に関する課題はまだ位置づけられていない部分があるため、引き続き検討いただきたい。生長の観点から、ゼロカーボンシティとの関りで記載を検討いただけると良い。炭素固定だけではなく、「施策8 剪定枝等の発生材の有効活用」等と関連して、できるだけ焼却しない樹木管理のあり方にも位置づけられるのではないかと。ゼロカーボンシティに関連する内容は、公園内の電灯のLED化以外にできることがあるのではないかと。特にバイオマスとの関りが盛り込めれば良い。

(委員長)

「議題2 計画の推進体制」についての質疑は以上とする。以上で本日の委員会を終了する。

その後、次回改訂検討委員会は2022年3月実施予定とし、詳細は後日連絡することです承を得て終了した。